

患者さん・利用者さん主体の「生きがい」につながるリハビリを進めます

在宅リハビリテーション科理学療法士 丹羽 俊貴

4月に医療保険・介護保険報酬が同時改定されました。

「地域包括ケア」の一環へ

今回の改定は、いわゆる「団塊の世代」



同時改定の学習会にはリハビリなど各職種から多数参加

が75歳以上となる2025年に向けて進められており、国はたとえ要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができよう、医療・介護・介護予防・

目標は生活の質向上

「リハビリ＝運動訓練」というイメージがありますが、リハビリは運動だけではないのです。これからは「日常生活の活動を高め、家庭や地域社会への参加を促し、

期化しているのが現状です。その中でリハビリは、退院後の生活を見据えつつ入院中から退院後まで統一した目標を設定し、切れ目のないリハビリを行なうことが求められます。そのため、医療と介護の現場間の情報交換などの連携がより一層重要になります。

「認知症カフェ」始めます！ 老健ちあき

認知症カフェは、認知症の方や、家族・介護者が孤立しないよう、患者さん・家族さんはもちろん、地域の方、医療・介護スタッフも一緒になって、認知症やとりまく問題について学んで行こうというものです。

日時 7月7日(土) 13:30~15:30
場所 老健ちあき
毎回、ミニ学習とコグニサイズ、交流会のおおむね三部構成で行います。第1回のミニ学習は「笑いヨガ」。
参加費 100円(お茶菓子代)
参加申し込みは、老健ちあきまで
☎0586-76-8100 FAX0586-76-8266
※FAXの場合は、「認知症カフェ参加希望」とし、お名前と連絡先を記して下さい。

糖尿病教室のお知らせ

日時 6月18日(月) 14:00~
会場 市民健康教室
話題 糖尿病網膜症だけじゃない？ 網膜の病気いろいろ
眼科 視能訓練士からのお話です

千秋病院研修医日誌⑱ 『えらい』から学んだこと

1年目研修医 渡邊 慎

患者さんと接するなかでも印象に残った言葉があります。それは『えらい』です。東海地方の方に接する機会は初めてで、どういった意味なのかわからなかったのですが調べてみると大変であるといった意味の言葉だとわかりました。自分が普段から使っている言葉は当たり前に通じるわけではないのだと実感しました。

憲法を考える 最終回



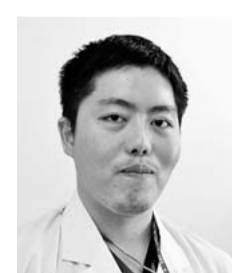
尾張健康友の会会長・弁護士 鍵谷 恒夫

憲法第9条は 国と国民の安全を守らないのか

先の選挙で、安倍首相は連日北朝鮮や中国の脅威を挙げ、日本と国民の安全が危ないこれは国難だと、国と国民を守るために憲法9条の変更が必要だと叫びました。野党の分裂に助けられて大勝した自民党は、2020年までに憲法9条に「国及び国民の安全を保つために必要な措置として自衛隊を保持する」と書き加えた新しい憲法を施行すると言いついています。

この時代ではありません。核兵器に至っては使った最後、次の瞬間には自分もやられるという使用しない兵器です。百歩譲って、彼らが武力で我が国に攻撃をかけてきたとして、自衛隊の武力で「自衛」するしたら自衛戦争の殺し合いになり日本国土は戦場になります。現実には逆に、朝鮮半島では「南北の対話」が始まり、「米朝首脳会談」

とほでさなくなり、高い兵器も買わされ、安保法制によってアメリカが起す戦争に参加して日本国民と国土を戦渦に巻き込む危険が極めて高くなります。「我が国に侵襲するものは、我が国が自衛隊を保持する」という「国防」のために、これまで9条によって抑制されてきた軍事予算は大幅に増えて、1300兆円という世界一の借金財政は破綻して、今でも



患者さんへ病気の説明をする時に、足のむくみを浮腫と言ってしまうと、伝わらなかったこともありました。患者さんへ病気の説明をする時に、足のむくみを浮腫と言ってしまうと、伝わらなかったこともありました。患者さんへ病気の説明をする時に、足のむくみを浮腫と言ってしまうと、伝わらなかったこともありました。